

第1章 宇都宮市の概要

1. 自然的・地理的環境



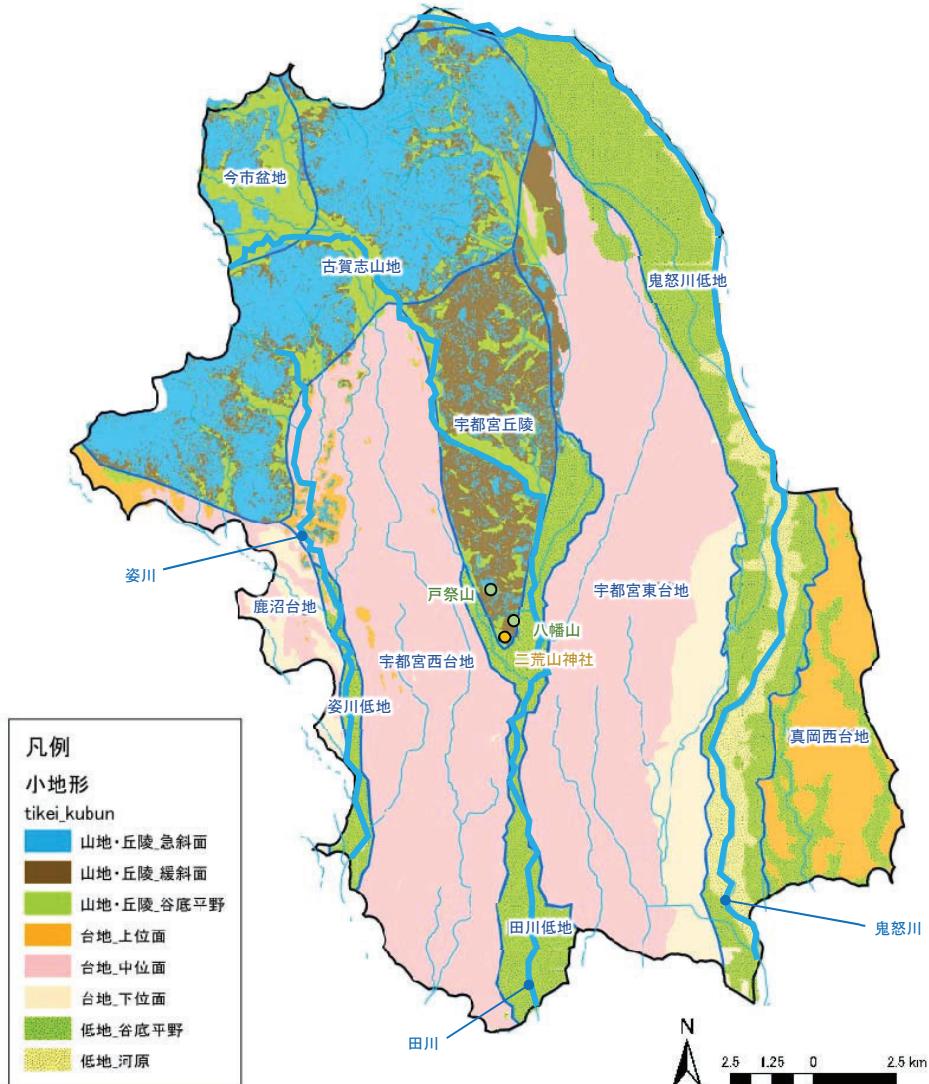
(1) 地形・地質

本市は、416.85 km²の総面積を有し、東部に鬼怒川、中央部に田川、西部に姿川と、南北に大きく3本の河川が流れしており、それぞれの流域に低地が分布している。鬼怒川低地と田川低地の間には宇都宮東台地、田川低地と姿川低地の間には宇都宮西台地が広がり、住宅地が集積する市街化区域となっている。

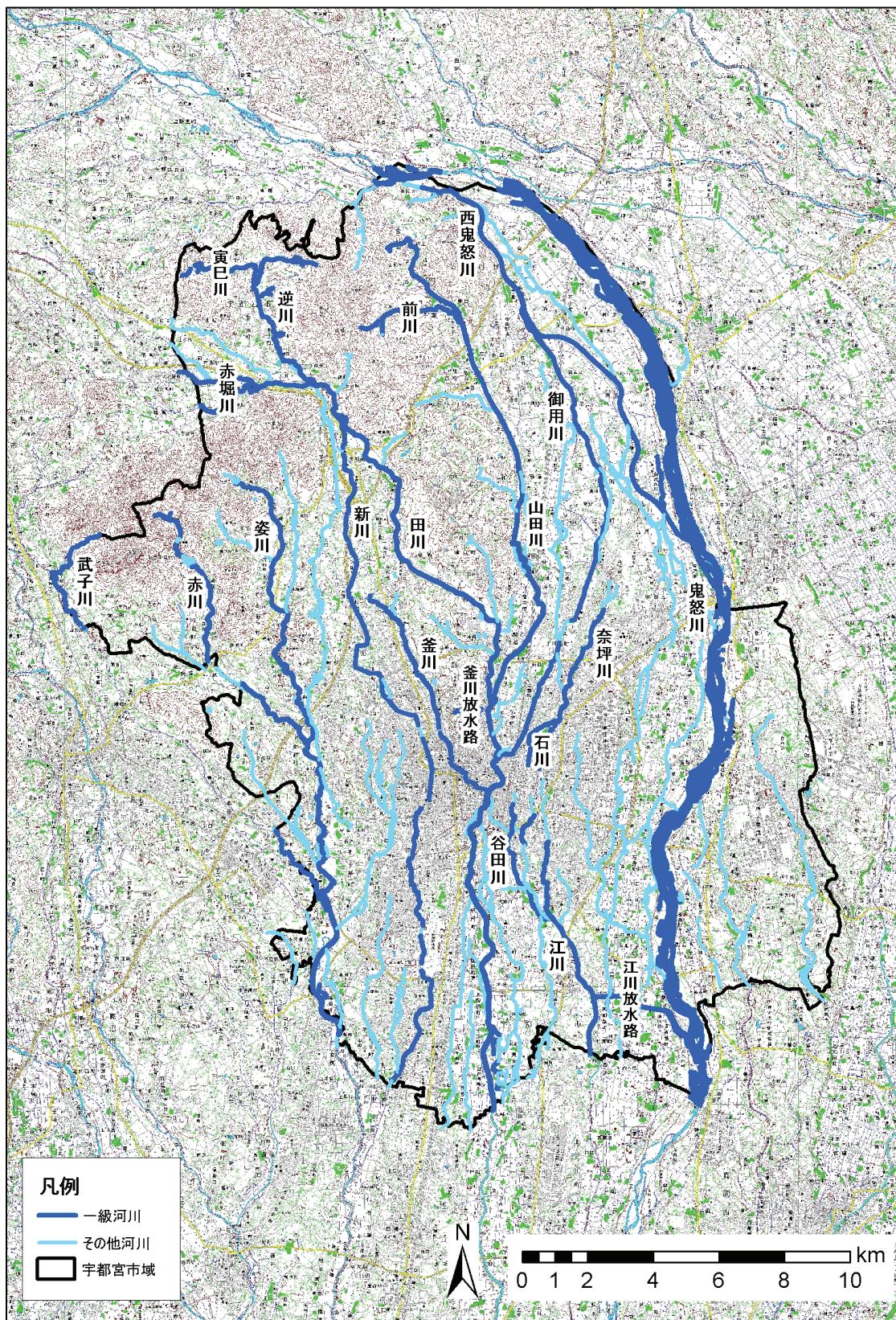
中央部の北側には、戸祭山、八幡山などの丘陵性山地からなる宇都宮丘陵がくさび状に広がり、丘陵の突端には二荒山神社が鎮座する。本市の中心市街地は、この丘陵の突端部に形成されている。

北部には今市盆地と多気山及び古賀志山で構成される古賀志山地が分布し、なだらかな山並みが続いている。古賀志山地の南部及び宇都宮丘陵には火山性の凝灰岩が分布しており、市内北西部の大谷地域では大谷石の採石産業が営まれている。

■地形



■水系



(2) 気候

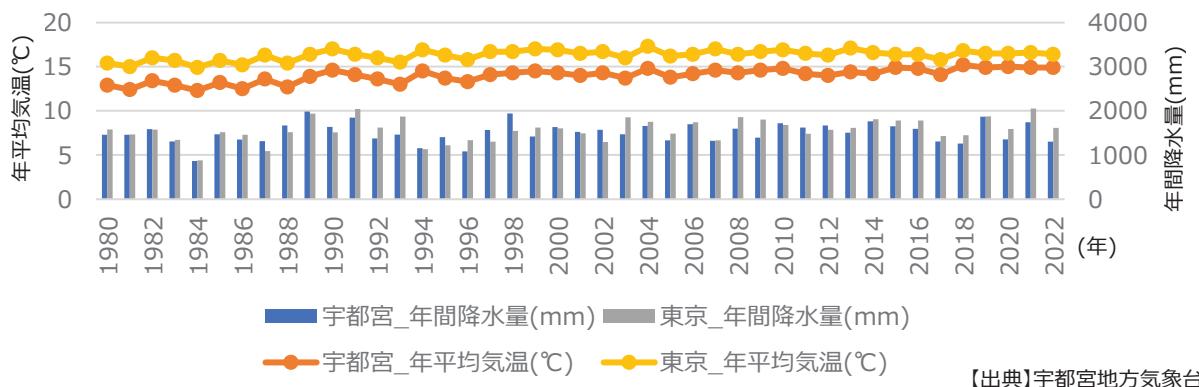
本市は、北に日光、塩原、那須の山々を背負い、内陸性の気候を示す。

年ごとの推移を見していくと、降水量は 1,500 ミリ前後で推移しているが、気温については、1980(昭和 55)年は平均気温 12.9 度だったのに対し、2022(令和 4)年は平均気温 14.3 度と温暖化が進んでいる。日最高気温 37.6 度(6月)、最低気温 -6.1 度(1月)であり、夏季と冬季の寒暖差は 30 度以上ある。

また、雷が多い地域といわれ、1981(昭和 56)年から 2022(令和 4)年までの間の雷日数は年平均 26.5 日であり、月別にみると春から夏にかけて多く発生している。

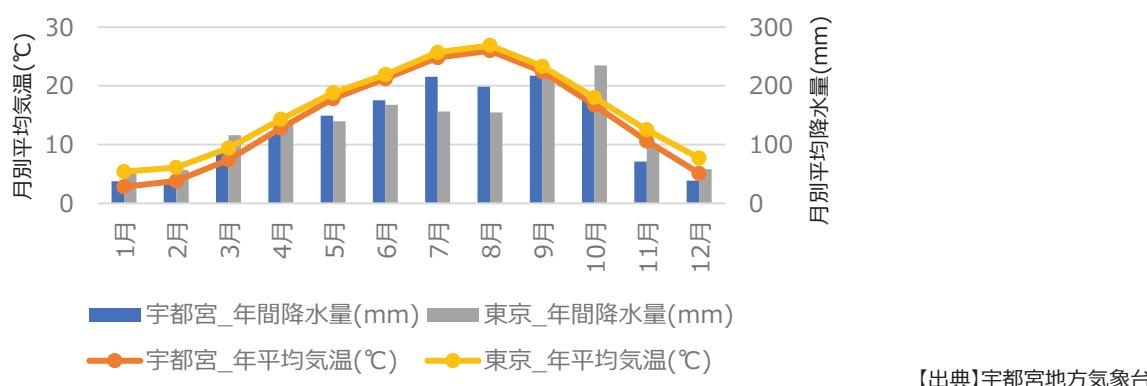
雪日数は年平均 23.6 日で、東京に比べると雪の降る日が多い。

■年間降水量及び年平均気温の推移



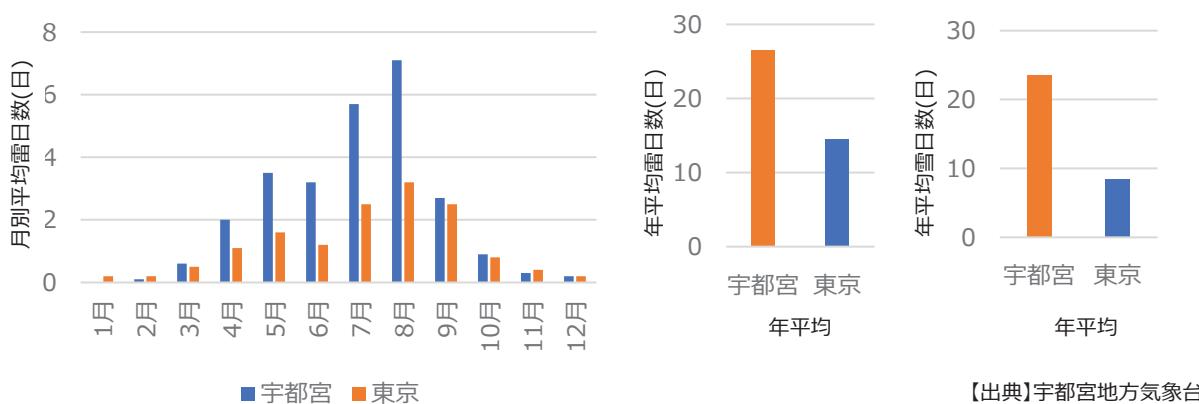
【出典】宇都宮地方気象台

■月別平均降水量及び平均気温（1981（昭和 56）年～2020（令和 2）年の平均）



【出典】宇都宮地方気象台

■月別雷日数、雷日数、雪日数（1981（昭和 56）年～2022（令和 4）年までの平均）



【出典】宇都宮地方気象台

(3) 動植物

①本市に生息・生育する種数

本市では、2009(平成 21)、2010(平成 22)年度に「宇都宮市自然環境基礎調査」を実施した。本調査によると、本市において生息・生育が確認された生きものの確認種数は以下のとおりである。

■市に生息・生育する生きものの確認数

分類	目数	科数	種数	重要種 ※
植物	—	154	1,287	38科 84種
動物	哺乳類	6	9	2科 3種
	鳥類	14	37	10科 14種
	両生類	2	6	5科 9種
	爬虫類	1	4	3科 8種
	昆虫類	16	215	29科 45種
	魚類	8	12	9科 11種
	底生生物	28	103	13科 15種
合計	—	540	3,363	109科 189種

※ 重要種の選定根拠は以下の通り

- ・文化財保護法により定められた天然記念物・特別天然記念物
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）における国内希少野生動植物種
- ・環境省レッドリスト掲載種
- ・レッドデータブックとちぎ掲載種

【出典】うつのみや生きものつながりプラン後期プラン（2021(令和3)年3月）

②生きものとその生息・生育環境

本市には、大規模な市街地とその周辺の農業を営む二次的自然環境、大規模河川の礫河原環境、奥山的な原生森林環境と、多種多様な自然環境がみられる（生態系の多様性）。この多様な自然環境では、540科 3,363種の動植物がみられ（2009(平成 21)年～2010(平成 22)年宇都宮市自然環境基礎調査より）、多様性豊かな地域であることが確認された（種の多様性）。これらの自然環境でも、ある程度の地域個体群により形成され、同種でも質の異なる種が存在し、「遺伝子の多様性」もみられる。

【市を特徴づける生きもの】

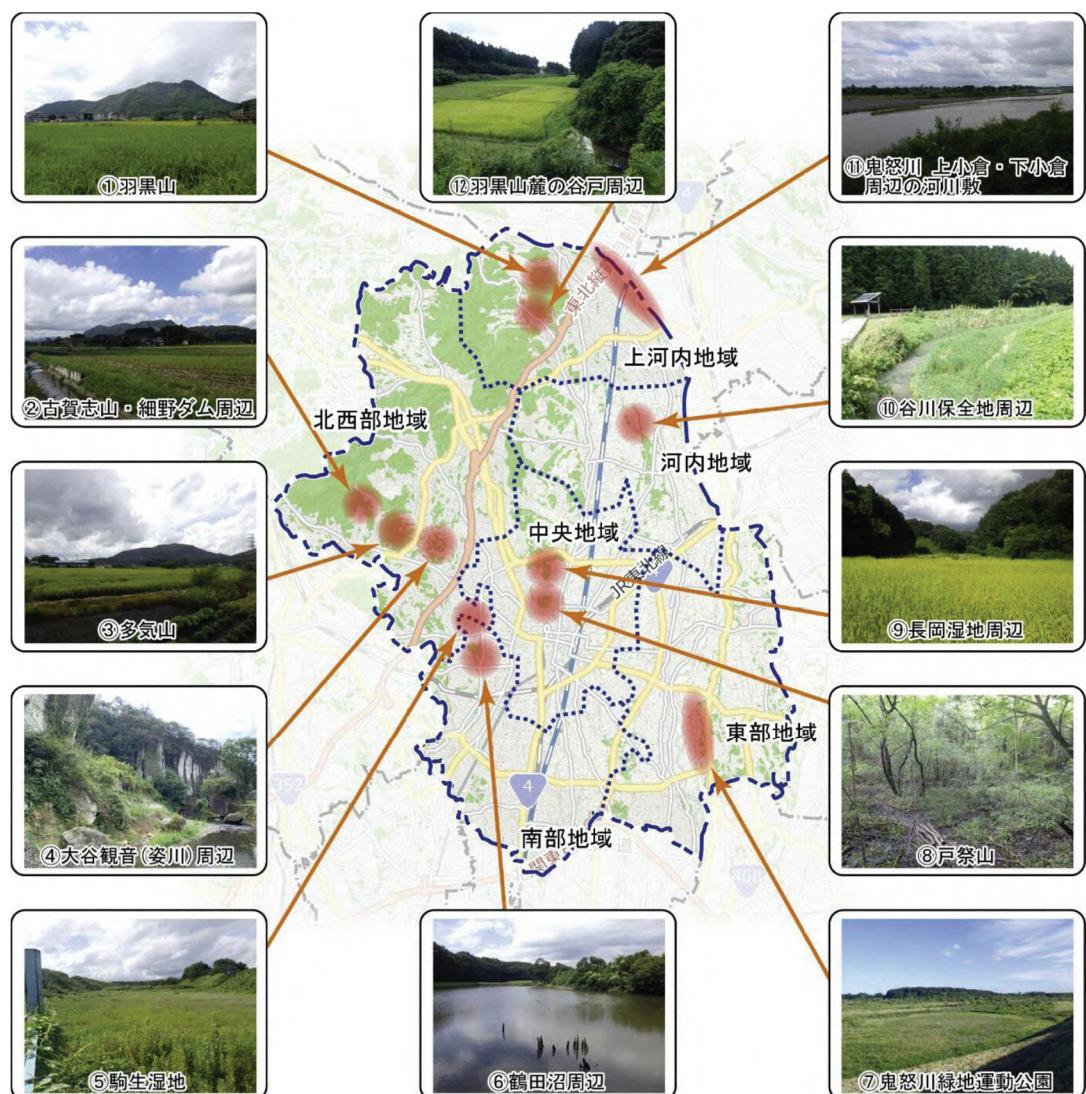
全国的に見ても珍しい鬼怒川の礫河原には、シルビアシジミやツマグロキチョウ、カワラバッタ、ウスバカマキリ、水辺にはツチガエルやカジカガエルなどの動物、カワラノギクやオキナグサ、カワラニガナ、カワラナデシコといった植物がみられる。これら希少な動植物の生息・生育は、礫河原が良好な状態で保全されていることを示している。また、一部の河畔林には、本市の天然記念物であるクロコムラサキが生息している。

市街地やその周辺の局所的に残された樹林および、湿地環境が良好に保全されている長岡湿地や戸祭山では、林縁部にキキョウが咲き、オオタカや本市の天然記念物であるトウキョウサンショウウオなどが生息している。豊かな森林にはオオムラサキが舞い、ヒガシニホントカゲがみられる。

湧水起源の貧栄養湿地である駒生湿地や、ため池に広く残る湿地環境が特徴的な鶴田沼では、湿地特有の生物がみられる。鶴田沼の湿地部では食虫植物のモウセンゴケが、ため池部では早春季にアズマヒキガエルの産卵がみられる。トウキョウダルマガエルなどを狙って二ホンマムシが現れ、林縁部にはニホンイタチやアナグマが生息している。

羽黒山や古賀志山をはじめとする山地の麓には谷戸が形成されている。山地からしみ出た水は谷戸上流部に湿地を形成している。場所によってはハンノキ林を備える湿地もあり、重要な動植物の生息・生育する場である。湿地部や休耕田にはトウゴクヘラオモダカなどの湿生植物、土水路内にはホトケドジョウやサワガニなどの重要種がみられる。また、森林公园周辺の沢では、本市の天然記念物であるムカシトンボが生息している。

■市を代表する自然環境



【出典】うつのみや生きものつながりプラン後期プラン（2021(令和3)年3月）